

平成 29 年 7 月 1 日

出場校 顧問・監督 様

全国高体連空手道専門部審判委員会

この度は、全国高等学校空手道選手権大会出場おめでとうございます。平素は、斯道発展になにかとご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、この度の大会出場に関しまして、特に下記の点にご留意頂きますようお願い申し上げます。以前よりお知らせしております点と、新たな変更点なども記してありますので必ずお読みください。

本大会は、公益財団法人全日本空手道連盟競技規定・審判規定、並びに公益財団法人全国高体連空手道専門部申し合わせ事項によっておこなわれます。競技上の事については、最終的には審判団の決めたことに従い、円滑な競技運営にご協力ください。

「組手競技について」

1 安全具

安全具については、決められた物を正しく装着してください。団体戦は、5人全員が試合開始時に全ての安全具を装着していなければいけません。(使い回しは出来ません)シンガード、インステップガードは、平成19年度選抜大会から義務付けられております。メーカーは「東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、ミズノ」の5社のみで、全国高体連指定品となっておりますのでご注意ください。(マークの付いているものとなります)

※ミズノ製の首かけ式でないプロテクターも使用可となっています。

※メンホーは、「メンホーⅥとⅦ」となります。(Ⅴは使用できません)

2. ルールについて

平成 29 年 4 月に全空連がルールの一部改定をおこないましたので、改定されたルールで実施されます。

＜主な改定点＞

- ・最初の得点に「先取」が与えられる。(双方同時に得点した場合はそれに当たらない)同点の場合、「先取」のある方の勝ちとなる。(個人戦、団体戦共)
- ・「後しばらく」が終了前 15 秒となる。
- ・競技者は 2 個のゴムバンドを身につけてよい。

- ・棄権によって出場資格を失った競技者は、その種目から退場になるが、他の種目に出場することはできる。ただし、団体組手を棄権した選手は個人組手に出場することはできない。(高体連申し合わせ事項)

＜確認していただきたい点＞

- ・両手で相手を掴む行為は禁止となる。ただし、相手の蹴り足を持ってもう片方の手で相手を掴んで投げる場合は認められる。
 - ・片手で相手を掴んでの攻撃、倒した後の攻撃は一瞬であれば認められる。
 - ・相手の投げなどによって下になった場合、一瞬片手で相手を掴むことは認められる。
 - ・ジュニア・カデットルールでおこなわれる。(上段突きは触れたら反則となり、メンホーから10センチ以内の突きも決まっていれば得点となる。)
 - ・倒した(倒れた)相手への蹴りは認められるが、十分に注意をすること。
 - ・相手の蹴り足を持ての投げは認められる。(ただし、危険な投げは禁止)
 - ・10カウントルールを採用する。
 - ・団体戦は、1, 2回戦は勝敗がついても全員が試合をおこなうが、3回戦以降は勝敗がついた段階で終了する。
 - ・負傷を装った行為(誇張)は、反則注意以上の罰則になる。
 - ・帯より下を掴んだ場合はC2、投げた場合はC1の罰則となる。
 - ・無防備は当たった時のみ適用され、技の得点や、C1の罰則と同時に使われない。
 - ・ペナルティーにより、相手へポイントが入ることはないが、「反則」になると8-0の負けになる。
 - ・互いに攻防することのない時間が長くなった場合、「不活動」の罰則になる。
 - ・C1による反則勝ちを2回した選手(一発反則勝ち、積み重ねによる反則勝ちのどちらも)はそれ以降の組手競技(団体戦、個人戦ともに)には参加出来ない。
 - ・終了15秒未満での、場外、逃避行為、掴み、プッシングは、C2の反則注意となる。
- ※ 団体戦のオーダー記入は、必ず監督がおこない、記入ミスのないようにしてください。
- ※ 応援の声が大きくなると、主審の「やめ」の声が選手に聞こえにくい場合があります。技を取ったあと「やめ」が聞こえず当ててしまって反則ということがおきます。監督・顧問の先生は、応援の仕方等について、以前にも増して「拍手のみ」で行うことを徹底してください。

「形競技について」

- ・礼法については、個人形、団体形ともに一試合4回の礼になる。
具体的な方法については、後項の「形・組手の礼法について」をご一読ください。
- ※ **TATAMI に入るとき出るときは礼はしない。また、形の開始・終了時の2回の礼をしない場合は反則となる。**
- ・不必要な息吹・足音、道着をたたき行為などは減点となるので十分に注意すること。
- ・帯にゴムやその他の物を付けることは禁止となる。
- ・形の使用について、今大会から以下のように変更になる。
1, 2 回戦は第1 指定形、3, 4 回戦は第2 指定形、5 回戦以降は以下のどちらかになる。

	5 回戦	準決勝	決勝		5 回戦	準決勝	決勝
①	A	A	B	②	A	B	C

※形名の記載には十分に注意すること。

「空手道着について」

- ・上着の袖は最長手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはいけない。また、上着の袖をまくってはいけない。
- ・ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆う長さとし、踵が隠れてはならない。
- ・袖の空き部分、ズボンの空き部分に関しては片側に寄せた状態で、余っている部分長さが**8～20cm**でなければならない。
- ※ 必要と判断したときには、実際に測定し、それで違反と判明した場合は1 分間ルールを適用しますので、十分に注意すること。
- ・上着の紐は、試合中は結んでいなければいけない。、上着の胸紐は付けてはいけない。
- ・本大会よりマイ帯で試合をおこなう。各自、各校で用意すること。帯には高体連指定マーク（グレーのもの）が付いていなければならない。また、所属を刺繍する場合は、**会派・流派名、道場名は不可とする。**（心配な場合は高体連事務局に問い合わせること）

※刺繍について

本来のルールでは刺繍を一切しないことになっているので、新しい帯を購入する場合は、刺繍をしないことが望ましいです。

刺繍の色については、今年度は問いませんが、次年度からは金色か銀色となっています。

「監督」

臨時監督が付ける場合は、自校の試合が並行している場合です。また、監督席に選手を読んで指示することは出来ません。

「その他」

- ・ 開会式、閉会式には黒・茶・白帯で参加すること。
（黒・茶・白帯の刺繍については従来通り）
- ・ マイ帯の管理については、各自・各校で責任を持つこと。（審判部、大会実行委員会
は関与しない。）
- ・ 個人形、組手試合で、次の試合が違うコーナー（赤から青、青から赤）になる場合、
現在いる場所で帯びの交換を済ましてから移動すること。（道着のまえをはだけたまま
で移動してはいけない。）
- ・ 男女個人組手決勝、団体組手決勝にビデオレビューを採用する。（詳しくは後項参照）